

1 大学生等の地域外人材との共創を自動化するスマホアプリ等開発業務委託 仕様書（別添）

3 仕様書にある「詳細な機能要件」については以下の通り

5 【1】 前提

6 アプリ利用者は毎年度約300～500人ずつ増加する見込み

7 仕様書に示す機能要件は現時点で想定するものであり、提案者の創意工夫によって追加や変更を行い、より良いアプリになるよう努めること
8 使い続けてもらう、毎日でも使いたい、そのようなアプリを求める

9 特に大学卒業後も使い続けたいと思ってもらえるアプリを求める

10 アプリ利用者以外への情報発信のため、市のホームページ「バンカランカ」と連動させる（Wordperssで制作・運用している）

11 「バンカランカ」とは：域学連携活動を写真や記事で紹介するほか、関連する資料や論文のアーカイブを公開するホームページ
12 アプリとの連携について

13 アプリ内で立ち上がったプロジェクト（機能D:）が、バンカランカのプロジェクトにも追加される機能を求める

14 アプリ連携における詳細な仕様については、市と協議する

15 市の公式LINEの活用についても検討する（このアプリ利用者には市のほうから市の公式LINE登録を推奨する）

16 洲本市でどんなプロジェクトが動いているのか、誰が活躍しているか、イベント開催など定期的に通知

17 ネイティブアプリもしくはブラウザアプリ（PWA化を行いネイティブアプリと遜色ない動作）とする

18 アプリ利用者は域学連携事業、企業連携事業の関係者に限定することとし、その判断は市が行う

19 アプリ利用者は以下のように区分する。

島外		島内		市内		←アプリ利用者の主な居住地
学生	社会人	学生	社会人	学生	社会人	
						←アプリ利用者の属性

23 学生・・・域学連携、企業連携に関わる高校生～大学院生

24 社会人・・・域学連携、企業連携に関わる全ての人（学生を除く）

25 アプリ利用料は無料

26 開発したアプリは市が管理運営するが、将来的には運用保守費確保のための収益化も視野に入れている

27 企業には有料でアプリを利用してもらう、有料で企業広告を掲載するなど

28 管理者画面はPCからもアクセスできること

【2】開発したいアプリの機能など

機能A:アプリ利用者情報の登録、一部公開

島外		島内		市内	
学生	社会人	学生	社会人	学生	社会人
○	○	○	○	○	○

利用者は、利用申請フォームにて必要事項（必要アカウント数など）を入力して申請を行い、市管理者がアカウントを発行する

一度に複数のアカウントを発行できるようにする

利用申請時に宣誓を求める（アプリ利用やプロジェクト参画に係る責任の所在等）

事前に申請されたアカウント数に応じて初回登録用のユニークなログインURLを発行する

利用者はURLにアクセスしてメールアドレスの登録を行い、メールに届いた認証コードを入力することでアプリにログイン
属性に応じたユーザー情報を登録できるようにすること（利用者の属性は年度ごとに更新）。

- ・属性（市内・島内・島外、学生（学年）・大学関係者・企業・団体）
- ・名前（漢字、フリガナ）
- ・ニックネーム
- ・画像
- ・所属団体名
- ・メールアドレス
- ・電話番号
- ・住所
- ・生年月日
- ・スキル、ポリシーなど人物像（機能D:と関係）
- ・興味のあるジャンル（機能D:と関係）
- ・最寄り駅（機能B:と関係）
- ・交通費振込口座（機能B:と関係）

登録されたユーザー情報を、市事務局で管理および統計資料として出力できる仕様とする

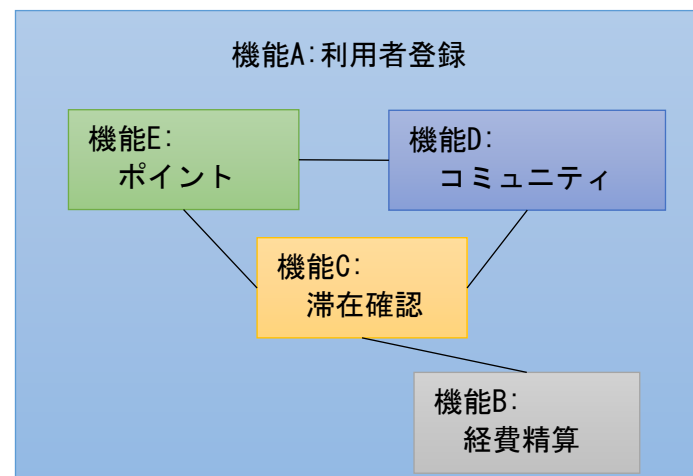
個人情報の取り扱いにおいて、データの暗号化処理などを行いセキュリティ対策を行う

2回目以降のログインについては、登録済みのメールアドレスに認証コードを送付してログインできる仕様とする

登録情報のうち公開して良い情報を選択でき、その情報をアプリ利用者が閲覧できる

機能C:D:E:とも関係するが、洲本市滞在時間数、得たポイント数、バッジ等での評価などをアプリ利用者が確認できる

アプリ上での活動実績（ポイント、バッジなど）を出力できる機能を求める



機能B:経費精算（主に交通費）

島外		島内		市内	
学生	社会人	学生	社会人	学生	社会人
○	△	×	△	×	△

アプリ利用者のうち、この機能を利用する者は約300～500人程度で大幅に増えない（主な利用者が島外現役学生に限定されるため）
域学連携、企業連携に参加する島外現役学生に対し、洲本市に到着するまでの交通費を支給するための支援ツール
島外現役学生だけが使い、卒業したら使えなくする
学生が交通費の支援を受けるために必要な手続きであることから、学生は手間がかかっても良い
市役所が、入手したデータをもとに交通費を積算し、指定口座に振り込む作業は軽減したい
交通費は、公共交通移動、車で乗り合い（レンタカー、私用車）などいくつかのケースが存在
公共交通移動については、対象学生の居住地や出発地の最寄り駅から市内目的地最寄り駅まで（洲本BC、五色BC、淡路島中央SICなど）で積算
レンタカー、私用車ででの乗り合いについては、ETC利用明細、レンタカー領収書、走行距離などを都度登録（証憑のアップロード）
来市したかどうかの確認は、機能C:で取得した位置情報によって確認できるようにする
交通費以外の経費精算もできることとする（消耗品購入、謝金支払い等、立て替え払いした社会人対象（使える人は限定する））
交通費等の経費精算の申請は市が承認することとし、チェックしやすいように工夫する
市が承認した経費はネット銀行で振り込むことを想定

機能C:洲本市内（淡路島内）での滞在の確認

島外		島内		市内	
学生	社会人	学生	社会人	学生	社会人
○	○	△	△	△	△

現役学生だけでなく、域学連携卒業後に洲本市へどれくらい来ているかを確認するための機能
事業効果や経済効果の算出に用いることとし、域学連携や企業連携の成果の数値化につなげる
アプリ起動時に位置情報を取得し、洲本市内にいること、淡路島内にいることを確認する（機能E:と密接に関係）
位置情報取得は、この方法に限らない
位置情報を取得したタイミングや回数で、洲本市内や淡路島内に滞在した時間を計測する
位置情報の取得によってアプリ利用者のプライバシーや安全が脅かされないような仕組みとする
洲本市内にいることが確認できた利用者から、来訪の目的などの情報を取得したい
洲本市内にいることを他の利用者と共有できるようにする
洲本市内にいる人に対するリアルタイムな情報を通知したい（今誰が洲本市に来ているか、今どんなプロジェクトが動いているか、など）
取得した位置情報の有効活用の方法があれば、提案を求める（プライバシーへの配慮は前提）

機能D:オープンイノベーションコミュニティ

島外		島内		市内	
学生	社会人	学生	社会人	学生	社会人
○	○	○	○	○	○

市主導で行ってきた域学連携、企業連携による共創をアプリ上で誰でも行えるようにする

行政が極力関わらず、プロジェクトのオーナーと参加者、地元と学生、といった関係性のなかで共創が進むようにする

利用者が課題やアセットを持ち寄り、みんなでチャレンジしようとする場とする

単なる営業やリクルートはNGだが、社会貢献や地域活性化に取り組む企業や地域の姿勢を理解してもらう場になる

プロジェクトに関する機能のイメージ

プロジェクト立ち上げ（概要やプロジェクト属性など登録）、参加呼びかけ

市によるプロジェクト承認（自動監視によるチェックを経て）

プロジェクト参加（オーナーが承認する）

プロジェクト内での交流や事業推進、資料の共有など

プロジェクト進捗状況や成果の共有（オープンイノベーション内と、バンカランカ等で広く）

プロジェクトは公開を原則とするが、プロジェクトの性質（守秘義務の発生等）によっては非公開部分を選択できる

プロジェクトが煮詰まった際「ヘルプ」機能を利用すればコミュニティ内に知らせることができる

プロジェクトのちょっとした一コマを写真に撮って一言添えてアップ（文字ばかりのコミュニティにたくない）

プロジェクト属性（興味あるジャンル、求める人物像）に合ったアプリ利用者とのマッチング（レコメンド機能）

利用者に合ったプロジェクトが検索できる

プロジェクトの進行の例

プロジェクト：たけのこ掘りイベント開催プロジェクト（カテゴリ：竹資源利活用）

環境保護、食の属性を持った参加者にプッシュ通知

数名がプロジェクト参加

日時、内容、準備物、役割分担などプロジェクト内で協議

途中からの参加者もあり、定員となったため募集は止める

イベント開催が決定

イベント告知したものの参加者が振るわないため「ヘルプ」機能でPRの協力を求める

アプリ利用者以外にもイベントを広く告知

イベント準備、当日の様子などを写真等でアップ

プロジェクト終了、一連の成果をバンカランカで公開

125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154

コミュニティ内部での問題行動の自動監視
 チェックする言葉やジャンル：政治宗教、事故や事件に繋がる、危険な言葉、過度の勧誘や売り込み、性的な事柄
 コメントへのコメント返しを禁止するなど風紀の乱れを抑制

プッシュ通知はマスト（属性の合うプロジェクトが立ち上がった、所属するプロジェクトに動きがあった、など）
コミュニティが盛り上がる仕組みをつくる（機能E:とも関係）
資料共有や文字入力などPCでもできるようにする（スマホでやりにくいことはPCで行える）
いつ、どこで、だれが、何をやってるのか、といったスケジュールをわかりやすく公開・共有したい（イベントや公開会議など）機能C:とも関係
市内でプロジェクト活動を実施する際の滞在拠点となるついではん、よりまち荘、タケダ玩具店などの利用案内を掲載（施設管理者もアプリ利用）

機能E:ポイント付与、ゲーミフィケーション

島外		島内		市内	
学生	社会人	学生	社会人	学生	社会人
○	○	○	○	○	○

アプリを何度も使う、使い続けてもらうためのインセンティブとして、ユーザーの行動に応じたポイントを付与する
ポイント付与のタイミング例
 アプリを起動すればポイント付与
 機能C:でカウントした洲本市内での滞在時間に応じてポイント付与
 機能D:でプロジェクトを立ち上げた人、参加した人に対してポイント付与
 プロジェクトの様子を発信した人に対してポイント付与
 プロジェクトの成果に対してポイント付与、バッジ発行などポイント以外の評価
 プロジェクト内でのポイントの移譲（応援やお礼の気持ちとして）
 特定の位置（行ってほしいプロジェクトの現場等）まで行けばポイント付与
ポイントを思わず集めたいくなるような仕掛けを求む
 レベルアップや称号、それに応じた特典などの、デザイン、ゲーム要素
ユーザーが集めたポイントを活用できるような仕掛けを求む（抽選機能など）
 例）集めたポイントを使い、アプリ内で抽選を行える
 景品の一部として、市内店舗で利用できる地域通貨が当たるなど地域経済に好影響をもたらす仕組みを求める
 ポイントの現金化は求めている